

東京外語大教授 中嶋 嶺雄

問題は、天皇訪中がもたらされているところにこそあるのではないが、天安門事件の対外的な後遺症が依然として残っている今日の時点で、天皇訪中というかつてなかった行事が実現した場合、それは日中関係の癒善だとして世界の目に映じ、ある種のアジア主義への反発と日本への猜疑心(さいぎしん)が国際的に高まりはしないかと私は懸念する。



日中国交二十周年に当たって、中国側から再三要請されている天皇の訪中については、積極論、慎重論、反対論が依然として交錯している。宮沢首相も訪中推進の姿勢を示しはしたものの、まだ決断を下してはいないようである。そうしたなかで、どちらかというと慎重論の立場にあった「読売新聞」も、去る六月二十七日、「天皇訪中の実現へ環境作りを」と題する社説を掲げて積極論に転じ、「産経新聞」以外は、本紙を含めて積極論で足並みをそろえるにいった。

天皇訪中の条件一開かれたアジアを

私見 直言

従って、天皇訪中の条件としては、日本が人権問題をはじめとする人類の普遍的な原理に関して、徹底したグローバルイズムの立場にあることを明確にするべきであろう。

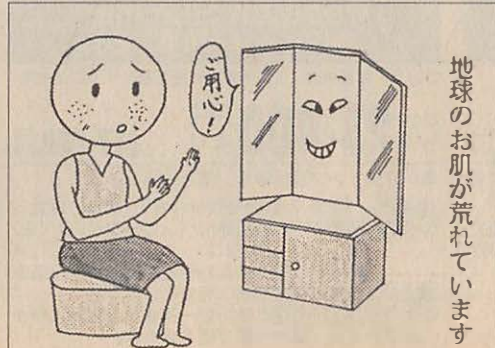
同時に開かれたアジアを模索する立場からすれば、天皇は中国や機が熟せば韓国のみならず、他のアジア地域にも気軽に親善訪問できるような環境を整えるべきであろう。

右の社説は、日中貿易や日中間の人の往来がこのところ急増していることを挙げておられるけれど、それならば日台関係は、貿易も人の往来も日中関係以上だという確固とした現実がある。このような現実を虚構としておられるかぎり、日本のアジア外交は本当のものではない。

天皇訪中が友好親善のためのものならば、次には、日本とその皇室にたいして世界でもっとも親近感をもっている台湾をこそ訪問されるべきであろう。

日中国交二十年は、日台断交の二十年でもあり、のでもしも中国が真に改革開放の政策をとるといふのなら、日本からも台湾からも要人の往来が可能になるような状況を作り出すのが積極的に対応するのではありません。そのような開かれたアジアを構築してゆくことこそ、日本外交と日中関係の今後の課題だと私は思う。

無関心の過ちは繰り返さない
無職 武藤 七路 81
(岐阜県各務原市)
「今回の「国際貢献のため」とか「金だけでなく汗を流すため」と聞こえがよい言葉並べる。われわれは心が心配である。これらは戦争の時でも、必ず良い目的を掲げるものである。さきの戦争では「東洋平和のため」とか「大東亜共栄圏の確立」であった。今回も「国際貢献のため」とか「金だけでなく汗を流すため」と聞こえがよい言葉並べる。われわれは心が心配である。これらは戦争の時でも、必ず良い目的を掲げるものである。さきの戦争では「東洋平和のため」とか「大東亜共栄圏の確立」であった。今回も「国際貢献のため」とか「金だけでなく汗を流すため」と聞こえがよい言葉並べる。われわれは心が心配である。これらは戦争の時でも、必ず良い目的を掲げるものである。



和山市 主婦・山歌 43 細川江美子

地球のお肌が荒れています
主婦 藤宗 洋子 44
(神奈川県横浜須賀町)
私には、政治家の言葉は保守革新の別なく、いつも耳を素通りしていつてもう。

ところが、四日朝刊の「思うそんぶん」で、宇都宮徳馬氏の言葉は、素直に胸の奥にストンと落ちてきた。政治家に一番必要なのは、何だと聞かれて、「そりゃあ志だな。……国民を不幸にしないことが政治家の最大の使命……」、そして、最近の政治家については「憎眼をむきほけている。選挙と世の技術だけほうまくったが、……この国は外国に干渉するよう

葉の宮都宇に落ちた

「山びこ学校」など一の生活綴(つづり)方動について、学校で学だことがある。その時「念くだき」、つまり外の方や観念から子供を放し、借りものの言葉はない、自分の言葉でかせることを教えらた。

宇都宮氏の言葉はそのとを思い起させた。